

国際交流事業

姉妹都市締結 30 周年記念

山口市・パンプローナ市

V



姉妹都市締結 30 周年記念事業実行委員会

表紙写真説明

フランシスコ・サビエルが生まれたハビエル城。
改修工事を終え美しくそして威風堂々とそびえたっています。

目次

もくじ	1
はじめに	2
日程表	6
訪問団紹介	8
訪問団員手記	9
思い出アラカルト	25
紙芝居	37
新聞掲載集	39



はじめに

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 30 周年記念式典

2010 年 10 月 21 日、山口市とスペイン・パンプローナ市との姉妹都市締結 30 周年記念式典が、パンプローナ市内の城址シウダデラ公園で行われました。山口市からは渡辺純忠山口市長を団長とする訪問団員 21 名が出席、ヨランダバルシナ・パンプローナ市長、同市議会議員、在スペイン日本大使館の川真田一穂参事官や日本企業関係者など多くの方の御臨席を賜りました。

ヨランダ市長は、スピーチの最後を次の古い格言を紹介し、締めくくられました。

「一つの文明の進歩をはかるのに、その協力体制の進歩をみるにしくはものはない。」

この意味をもってして、この先もずっと、パンプローナと山口が協力し合い、互いに進歩し続けていくことを願ってやみません、と。

渡辺市長も「山口公園に育つ桜のように両市の中で友情の絆が大きく育っていくことを強く願っております」と、山口公園が両市の友好の象徴として、両市の市民の手に寄ってこれからも愛され、育てられ続けていくことを願う気持ちをスピーチで伝えられました。

そしてヨランダ市長からは、ヒガンテスの飾りが渡辺市長と野村議長に、渡辺市長からは萩焼の花瓶、野村議長からは大内人形がそれぞれヨランダ市長へ 30 周年の記念品交換として贈呈されました。

記念式典では、パンプローナ市のお取り計らいで、紙芝居やヒガンテスの踊りが披露され、会場は大変盛り上がりました。この温かいおもてなしに、まさかヒガンテスの踊りが見られるとは思っても見なかった訪問団員一同は、大変感激した一瞬でした。

記念式典後山口公園に移動して記念植樹を行い、30 本の桜の息吹があふれる公園となりました。

その他にも式典の前には、サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校という現地小学校を訪れ、市民訪問団有志によるエプロンシアターを披露しました。子供たちには大変好評で、最後はこどもたちが掛け声を一緒にかけるなど、正に心が通い合ったひとときでした。また山口図書館を訪れた際には、映像資料の充実のために役立てていただこうと、山口ナバラの会から 500 ユーロが贈られました。

過去から現在へと脈々と受け継がれそして大きく育ってきたパンプローナ市との友情。私たちは山口市の宝としてこれからも脈々と両市の友情をつなげていきたいと思っています。



10月21日姉妹協定30周年記念式典挨拶

山口市長 渡辺 純 忠



訪問団を代表いたしまして一言御挨拶を申し上げます。

ヨランダ・バルシナ市長様をはじめとするパンプローナ市の皆様、本日は私たち訪問団のためにかくも盛大な御歓迎を賜り、誠にありがとうございます。

また、昨日は貴市やナバラ州の訪問、そして、パンプローナ市内、ハビエル城、オリテの見学など、私たち訪問団のために大変親切で温かい御対応を賜り、訪問団を代表して心から感謝を申し上げます。

さて本市の国際交流の歴史は、30年前の貴市との交流から始まりました。相互の親善訪問や絵画の交換、図書や紙芝居の寄贈など、後の交流事業の手本となる多くの実績を残して参りました。

特に15周年記念事業で行われた「山口公園」の建設は、貴市市民の多くの方が親しみを込めて山口を知っていただくきっかけとなつたと伺っており、本市の国際交流事業の中でも画期的な事業として高く評価されているところでございます。

本日は、歴代のパンプローナ市長の皆様も御列席いただいておりますとお伺いしております。また今回の市民訪問団の中にも、山口公園建設に大変御尽力いただいた多々良孝一様を始め、二度目またはそれ以上の訪問という方がいらっしゃいます。皆様の手によりここまで積み重ねて来られた交流の歴史の上に、今回の私たちの記念訪問が立っていることに、大変な重みを感じているところでございます。

今回の記念訪問では、貴市が日本文化の教育に大変熱心であるところと知られておりますことから、山口ナバラの会から、日本の名作映画収集に役立てていただきたいと山口図書館へ寄附金が贈呈され、そして市民有志の方からは、日本の幼児教育として広まっているエプロンシアターという演劇を小学校で披露させていただきました。

また本市では、スペインの文化をテーマにしたイベントが毎年秋に商店街で行われております。昨年はヨランダ・バルシナ市長様とテレビ会談をさせていただいたことも記憶に新しいところでございます。

30周年を迎える今も、このように両市の間で新しい交流事業が行われ続けております。今後もますます両市の理解と友好が深まり、あらゆる分野での相互発展が進んでいくことを期待しております。

このあと山口公園での記念植樹などがございます。山口公園に育つ桜のように両市の間で友情の絆が大きく育っていくことを強く願っております。

最後になりましたが、今回の訪問そして30年間の両市の交流を支えていただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、貴市のますますの御繁栄と、御臨席をいただきました皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして挨拶といたします。

ムチャス グラシアス
(ありがとうございました)



10月21日姉妹協定30周年記念式典挨拶

パンプローナ市長 ヨランダ・バルシナ



山口市長様

行政にたずさわられます関係者の皆様

そして、こちらにおこしになられた親愛なる皆様方、おはようございます。まず、何をおきまして、姉妹都市山口市の皆様方に、とりわけ渡辺 純忠 市長に、昨日今日と私どもと共にいらっしやり、姉妹都市提携30周年記念をがいっしょしていただけることに、感謝いたします。

1980 年、山口市、パンプローナ市を代表して、中野正市議会議長とフリアン・バルドゥス市長が歴史的な姉妹協定に調印しました。

この姉妹協定は、今日まで引き継がれ、30年の長きに渡って、尊敬と友情と協力の関係を伝えてまいりました。

このパンプローナ滞在中、パンプローナ市役所のみならず、ナバーラ州政府庁、また、疑いもなくナバーラと日本をつなぐ象徴である、サビエル城へ皆様が行かれたことと存じております。

歴史の語りますように、世界的な人物であります私どもの守護聖人、聖フランシスコ・サビエルは、日本に初めてキリスト教の信仰を伝えた人物であり、同じく、日本人の本質と文化への理解につとめました。

500年も前の偉大なパイオニアであったわけです。

実際、彼の残したものは、未だ多くの国々で今も息づいております。私達の姉妹関係は、彼のしいた土台の上に生きる例であります。

また、皆様のパンプローナ滞在のうちに、色々な体験をなされましたこと、特に「2010 年日本週間」として、日本文化に関する上演、会合、展示等が行われる行事の幾つかを楽しまれた事は、私のとりわけ喜びとするところです。

皆様に楽しんでいただき、パンプローナで全ての日本文化に関わる活動と呼び起こしております興味と尊敬の情をわかっていただく一助となる事を願って止みません。

この後、山口公園において、六本の日本の桜の植樹という、私達の姉妹都市提携の歴史の新しい一章となる行事をおこなう榮譽を担っております。

この行事によって、日本庭園に新たに優れた光景がもたらされ、私達のつながりをこれまで以上に強めてくれるであろうことを、私は確信しております。

パンプローナ市長として、私は今一度、皆様がナバーラにいらした事を、また、これからも私どもの架け橋となし続けてくださることに、深く感謝いたします。

次の古い格言をもって、私のスピーチの終わりにかえさせていただきます。

「一つの文明の進歩をはかるのに、その協力体制の進歩をみるにしくはものはない。」

この意味をもってして、この先もずっと、パンプローナと山口が協力し合い、互いに進歩し続けていくことを願ってやみません。

皆様どうも、ありがとうございました。



山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 30 周年記念事業実行委員会

実行委員長 山口ナバラの会 会長 多々良孝一



このたび山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 30 周年を記念して友好訪問団を実現する為に実行委員会を設置し、山口市商工会議所・山口ナバラの会・山口市造園協会の皆様と協議のうえ実行案を決定しました。

1. 友好提携締結記念公式行事への参列
 2. 山口公園内に桜の記念植樹 5 本
 3. ザビエル城 見学
 4. 記念事業 エプロンシアター ヤマグチ図書館に図書購入資金として 500 ユーロ寄付以上
- 計画で皆様方への参加のお願いをする事にしました。

委託旅行会社の選定については 4 社の見積(代金、旅程内容)等を慎重に審議した上で JTB 中国四国山口支店に決定しました。

公式訪問団(山口市関係 6 人)を含めた募集人員を 35 名としました。

山口市報に発表すると同時にパンフレットを作成し募集したところ、15 名の参加申込があり 21 名の訪問団を組織しました。事前にスペインについての勉強会を開催しました。

10 月 17 日、山口市市民会館を 10 時 30 分に出発し、10 日間の旅が始まりました。

10 月 18 日、午後 18 時 10 分にマドリッドに到着 宿泊

10 月 19 日、マドリッド市内見学 午後列車にてパンプローナへ 宿泊

10 月 20 日、パンプローナ市訪問 記念事業、記念植樹、ナバラ州政府を表敬訪問

10 月 21 日、フランシスコ・ザビエルの生誕地 バビエル城の見学

列車にてマドリッドへ帰る マドリッド泊

市民訪問団員はイタリアの旅に 空路でミラノに入る

10 月 22 日、ベネチア 水の都を観光 ベネチア泊

10 月 23 日、陸路 フィレンツェへ観光 フィレンツェ泊

10 月 24 日、陸路 ローマへ 観光 ローマ泊

10 月 25 日、ローマからフランクフルト経由 13 時 35 分フランクフルト空港より成田空港へ。

10 月 26 日、成田空港に 7 時 30 分到着 13 時 30 分に福岡空港着。

福岡空港より貸し切りバスにて 17 時に山口市に無事帰着。

山口市長、市議会議長、市当局、JTB の職員の皆様には大変お世話になりました。

全員無事帰着出来ましたことを実行委員として心よりお礼申し上げます。

また市議長様、山口市の職員を始め関係者の皆様のお出迎えを頂きました。

有り難うございました。

日程表

山口市役所関係者

	月 日	曜日	交通機関	現地時刻	日 程
1	10月 17 日	日	貸し切りバス	9:00	山口駅発
			ANA2144	9:50	新山口駅発
				12:10	福岡空港着
				13:05	羽田空港へ
				14:55	羽田空港着 ホテルへ
				18:00	ホテル内で出発式
2	10月 18 日	月	貸し切りバス	7:00	ホテル発
			LH771	7:30	成田空港着
				9:35	フランクフルト空港へ
			LH4414	15:00	フランクフルト着
				15:40	マドリッド空港へ
				18:10	マドリッド空港着 ホテルへ
3	10月 19 日	火	貸し切りバス	9:00	ホテル発 トレドへ
			ALVIA HIGH SPEED TRAIN#01	10:00	トレド着
				12:00	トレド発
				13:30	昼食
				15:00	ラ・カーサ・エンセンディエーダ
				17:00	メディア・ラボ・ブラド
				18:30	アトーチャ駅着
				19:35	パンブローナへ
				22:40	パンブローナ駅着 ホテルへ
4	10月 20 日	水	貸し切りバス 徒歩	10:00	ナバラ州政府にて歓迎レセプション
			貸し切りバス	10:45	サンタ・マリア・デ・パンブローナ大聖堂
				12:30	パンブローナ市役所にて歓迎レセプション
				13:00	パプロ・サラサテ美術館・シビボクス・コンデスタブル見学
				13:30	シビボクス・コンデスタブルにて昼食
				16:00	ハビエル城見学
				18:15	オリテ見学
				21:00	歓迎晩餐会
5	10月 21 日	木	徒歩	9:00	山口図書館見学 寄附金贈呈
			貸し切りバス	9:30	サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校にて文化交流
				11:00	シウダレラ公園の武器の部屋にて公式レセプション
				12:00	山口公園 記念植樹
				12:50	レイノ・デ・ナナラ・ホテルで昼食
				14:00	パンブローナ駅着
			ALVIA HIGH SPEED TRAIN#06	14:35	マドリッドへ
				18:00	アトーチャ駅着 ホテルへ
6	10月 22 日	金	貸し切りバス	6:00	ホテル発 マドリッド空港へ
			LH2581	9:05	フランクフルト空港へ
			LH710	11:45	フランクフルト空港着
				13:35	フランクフルト空港発 成田空港へ(機内泊)
7	10月 23 日	土	ANA2141 貸し切りバス	7:30	成田空港着
				11:30	福岡空港着
				13:30	福岡空港発
				16:00	山口市着

山口ナバラの会及び市民訪問団

	月 日	地 名	交通機関	現地時刻	日 程
1	10/17 (日)	山口市 福岡空港着 福岡空港発 成田空港着	貸し切りバス ANA2144	9:00	山口より専用バスにて福岡空港
				12:10	
				13:05	空路、成田空港
				14:55	(成田空港泊)
				18:00	ホテル内で出発式
2	10/18 (月)	成田空港発 フランクフルト着 フランクフルト発 マドリッド着	LH771 LH4414 貸し切りバス	7:30	成田空港集合
				9:35	空路、(フランクフルト経由)マドリッド
				15:00	
				15:40	
				18:10	着後、ホテル (マドリッド泊)
3	10/19 (火)	マドリッド～ トレド～ マドリッド マドリッド発 パンプローナ着	貸し切りバス ALVIA HIGH SPEED TRAIN801	午 前	マドリッドからトレド
					午前、トレド市内半日観光
					サント・トメ教会・カテドラル見学
					午後、マドリッド市内半日観光
					スペイン広場・プラド美術館・王宮・グランビア通り見学
4	10/20 (水)	パンプローナ	貸し切りバス	19:35	夜、列車にてパンプローナ
				22:40	(パンプローナ泊)
				終 日	パンプローナ市訪問
					(記念植樹、記念事業、表敬訪問など)
					(パンプローナ泊)
5	10/21 (木)	パンプローナ発 マドリード着 マドリード発 ミラノ着	貸し切りバス 列車(2等) 貸し切りバス LH1807	午 前	午前、パンプローナ市視察
					フランシスコ・サビエルの生地
					ハビエル城見学
				午 後	午後、列車にてマドリード
				夕 刻	着後、空港
6	10/22 (金)	ミラノ発 ベネチア着	貸し切りバス 車/ボート	20:20	空路、ミラノ
				22:20	着後ホテル (ミラノ泊)
				午 前	陸路、ベネチア
					水の都ベネチア観光
				午 前	ドゥカーレ宮・サンマルコ広場
7	10/23 (土)	ベネチア発 フィレンツェ着	車/ボート	午 後	サンマルコ寺院など (ベネチア泊)
				午 前	陸路、フィレンツェ
					着後、徒歩にてフィレンツェ市内観光
				午 後	ドゥオモやウッフィッツィ美術館を見学
					(フィレンツェ泊)
8	10/24 (日)	フィレンツェ発 ローマ着	貸し切りバス	午 前	陸路、ローマ
					着後、ローマ市内半日観光
				午 後	映画「アマルフィ・女神の報酬」のロケ地
					コロッセオ・サンピエトロ寺院見学
					夕食はカンツォーネディナー (ローマ泊)
9	10/25 (月)	ローマ発 フランクフルト着 フランクフルト発	貸し切りバス LH3841 LH710		バスにて空港へ
				10:10	空路、(フランクフルト経由)帰国の途に
				12:15	
				13:35	(機内)
10	10/26 (火)	成田空港着 成田空港発 福岡空港着 山口市内着	ANA2141 貸し切りバス	7:30	
				11:30	空路、福岡空港
				13:30	バスにて山口
				17:00	到着後、解散

訪問団紹介

市役所関係者

氏 名	役 職
渡 辺 純 忠	市長
野 村 幹 男	市議会議長
重 見 武 男	参与
鯨 田 慎 治	秘書課主幹
来 栖 佳 明	国際交流室主査
梅 沢 雅 代	通訳
小 松 ま ゆ	添乗員

市民訪問団

氏 名	
多々良 孝 一	山口市吉敷
石 井 映 子	山口市吉敷
伊 藤 貞 夫	山口市赤妻町
糸 長 三津枝	山口市阿知須
入 江 正 敏	山口市大内
入 江 幸 江	〃
内 田 輝 幸	山口市鑄銭司
内 田 陸 子	〃
大 隅 友 二	山口市荻町
大 隅 映 子	〃
岡 本 良 子	山口市小郡下郷
桑 原 理 恵	山口市宮野上
武 永 喜代榮	山口市新馬場
藤 村 尚 美	山口市矢原
藤 村 深 雪	〃
柳 田 実	添乗員

実行委員会

氏 名	
多々良 孝 一	山口ナバラの会
小 林 真 人	山口ナバラの会
重 政 芳 巳	山口ナバラの会
清 水 良 子	山口ナバラの会
鈴 茂 健 二	山口商工会議所専務理事
多々良 健 司	山口市造園協会会長
榎 本 和 正	山口市総務部参事

訪問団員手記

スペイン パンプローナ市 訪問

山口市議会議長 野村 幹 男



山口市・パンプローナ市姉妹締結30周年記念事業公式訪問団に参加させていただき大変に貴重な体験を得ることが出来ました。

日本にキリスト教と西欧文化を伝える活動を実践した、聖フランシスコサビエルを介してのつながりで30年前にスペインパンプローナ市との姉妹締結をされた関係の皆様へ感謝の思いを深くした訪問でした。

今回は、パンプローナ市訪問の前にマドリッド市内のメディアアート施設を2カ所訪問しました。市民活動

とメディアアートが融合した施設と活動内容の様子がYCAMの今後の活動指針に、また施設間の人材を含めた交流が進むことで更なる活動の充実につながるの思いでありました。

パンプローナ市では、ヨランダ市長や多くの方の歓迎と各種施設訪問やレセプション、またナバラ州政府首相を表敬訪問するなど、スペインの伝統と文化、史跡を直接体験することができました。今後も両市が公式、民間交流を続けることで更に理解が深まり異なる文化の交流で双方の都市の文化価値が高まることにつながると感じました。

今回の訪問の記念事業として、15周年を記念してパンプローナ市中心部に日本庭園の手法で建設された「山口公園」に桜の苗5本の植樹と、こいのぼり2匹を泳がせました。桜の木は合計30本となり、今後「山口公園」の更なる整備により、更に多くのパンプローナ市民に公園を利用してもらい、山口市をより身近に感じることで、民間交流も進み両市の歴史、伝統、文化が更に深まることを期待し、私も努力してゆく決意をした訪問となりました。

サビエル神父の生まれたハビエル城の姿と、広大な麦畑の広がるスペインの大地が今も目に焼きついています。

最後に、今回の訪問に関係していただいた皆様へ心より感謝とお礼を申し上げます。

パンプローナ市公式訪問を終えて

山口市参与 重見 武 男

パンプローナ市訪問を通じて、まず、市民訪問団の皆さんの国際交流に対する熱い思いと元気に、敬意と感謝を申し上げます。良好な国際関係のためには、市民レベルの相互理解と市民交流が重要であることを再認識しました。

姉妹都市という国際交流のありかたについて異論を持つ人もおられます。それは、現在のグローバル化した社会のなかで、姉妹都市に縛られることなく、多くの国との交流をすすめていくべきだ、との考えです。しかしながら、この訪問を通して感じたことは、私たちの地域社会にとって、時代ごとに新しい課題が次々と現れ、世界的に課題の共通性が強まることを考えれば、姉妹都市交流のテーマ、(たとえば日本庭園、紙芝居、山口図書館、山口市におけるフェスティバル、クリスマス、観光等



経済活動など)は無限にあり、また、潜在的な参加市民の層も広いと考えます。

特に、パンプローナ市との交流に関しては、大先輩の福田礼輔さんの文書に、次のような内容のことが書かれていたと記憶しています。

「歴史を辿ると、大内氏は、朝鮮、明との交易など、開明思想が底流にあって、住民に脈絡と受け継がれた。この開明思想が、明治維新として開花した。

私たちの精神文化の源ともいえる「大内文化」とサンフランシスコ・サビエルは符号する。ならば、パンプローナ市との姉妹都市の歴史は、30年だけれど、実は、サビエルとの出会いから500年近く、私たちは、何らかの形で意識してきたことになります。

今後とも、まちづくりに関して、あるいは、グローバル化が進む中での、異文化理解のための人材育成、さらには、新たな視点、発想に基づくテーマなど、たくさんの市民の参加によって、パンプローナ市との交流がより活発に展開するよう期待し、また、努力したいと思います。

この度の訪問での、視察、イベントに関し、所感を揚げます。

ハビエル城

フランシスコ・サビエルが生まれ育った城、ハビエル城。城と周辺の風景との色彩基調の一致感がすばらしく、瞬間、オルセー美術館にあるミレーの「落ち穂拾い」を思い出した。サビエルを知るには、まず、この地に立つことだと感じる。

ハビエル城の内部は、フランシスコ・サビエルの生涯や当時の歴史を伝える博物館として整備され、サビエルの生涯は現代風にいえば、3Dシアターを見ているような人形と舞台装置とストーリーによって分かりやすく作られている。

さらに、歴史資料には、サビエルが日本で布教活動を行っている掛け軸なども展示されており、サビエルと山口のつながりを十分に感じ取ることができた。

案内をしていただいたアロント神父は、82歳と高齢だが、60年間、インドで布教活動をされ、最近、ハビエル城に赴任された神父。時代は違うが、司馬遼太郎も、「日本で禅僧という人に幾人か会ったが、スペインのハビエル城の神父さんほどすばらしい禅味を感じたことは一度もなかった。」とあるように、市民訪問団の人から、「アロント神父さんは、神に最も近い人」との声がささやかれるほど、全体からただよう、熟成された落ち着き、安心感が感じられる神父であった。

ハビエル城を後にして、有名なホテル yamaguchi を車窓より確認しながら、中世の街並みの残るオリテを散策。十五世紀、ナバラ国カルロス3世によって建造された石造りの城壁に囲まれ、古城の雰囲気がある街である。現在も、周辺は高原が広がり、隔絶された城壁の中に住民も生活しており、夕刻になると、中央の広場に老若男女が集い会話やサッカー等に興じる光景を見るにつけ、ここにはそもそも日本的な僻地や中山間などの課題は存在しないのだろうか。ここでも歴史と宗教の力を垣間見たような気がする。

再び、パンプローナ市に向けての車窓から見える山の頂には、沢山の風車が設置されている。パンプローナ市で使用するほとんどの電力は風力発電で賄われ、また、ナバラ州全体では、約60%が風力発電とのこと。低炭素・環境社会に対する意識の高さを実感する。

公式訪問団、市民訪問団のメインイベント

市民訪問団については、公立山口図書館への山口ナバラの会からの図書充実のための寄付、さらに近くにある小学校でのエプロンシアター上演とシアターセットの寄付、そして、山口公園での桜

の植樹等。公式訪問団は、武器の部屋にて公式レセプション。

まず、山口図書館では、映画好きの自分も驚くほどのお宝的な日本映画のDVDの数々、そして書籍。2002 年の開館とのことであるが、これまでのパンプローナ市・山口市両市民の交流の成果であり、将来に続く架け橋たる役割を担う施設となっている。

小学校でのエプロンシアター上演の題材は、「おおきなかぶ」。かぶを引き上げる時の掛け声など、児童たちの訪問団を歓迎するための準備が十分なされていたことがわかる。その後児童二人による「紙芝居」の発表。紙芝居といえば、山ロナバラの会によるパンプローナ市への紙芝居を贈る運動により、市内では「紙芝居の会」が各所に出来、浸透しつつあるとのこと。

今や、アニメーションがメディア芸術の重要な位置を占めることとなった現在、日本の誇る文化として紙芝居が世界の人々の心をとらえつつある、その源流のひとつとして山口市の活動があることも、この国際交流が果たしてきた成果と言えるのではないかな。

「武器の部屋」での公式レセプションでは、両市町のメッセージと野村市議会議長を含めての記念品交換。管楽器演奏や巨大人形の踊りなど、パンプローナ市関係者と、市民とともにパンプローナの文化を厳粛な雰囲気の中で味わうことができた。

ここでも、日本語とスペイン語による紙芝居が披露された。

その後、山口公園にて、6 本の桜の苗木の植樹。これまでの植樹と合わせて、開花時期に市民が集う光景を思うと、山口図書館を含め名実ともに日本につながる施設となっている。事実、植樹時に、ベンチに腰をかけ談笑されている老夫婦から、「YAMAGUCHI！！YAMAGUCHI！！」の言葉を、親指を立てて投げかけられた、その場面が昨日のように思い出されるし、パンプローナに根づく山口の存在が確かな足音で大きくなっていることを実感し、市民訪問団の努力の蓄積に脱帽する。

姉妹都市締結30周年記念訪問団に参加して

山口市秘書課 鯨 田 慎 治



平成22年(2010年)は、山口市とパンプローナ市との姉妹都市締結30周年の節目の年にあたるということで、市長を団長とする公式訪問団の一員として、スペインを訪問させていただくこととなりました。

まず初めに、出発2週間前に事前研修会が行われ、市民訪問団の代表である多々良会長がご挨拶される中で、これまでの取り組みの様子や姉妹都市提携15周年を記念してパンプローナ市に建設された公園である「山口公園」のお話をお聞きし、遠く離れているパンプローナというまちに大変親しみがわくとともに、実際に訪れて

みたいと感じるようになりました。

今回の訪問では、ナバラ州政府、パンプローナ市をそれぞれ訪問し、ナバラ州首相、パンプローナ市長をはじめとした多くの方々に温かく迎えていただいたほか、メディアアート施設の視察や公立小学校への訪問も行いました。小学校では、市民訪問団の方々によるエプロンシアターが披露され、とても和やかな心温まる交流となり、大変印象的でした。また、記念植樹のため「山口公園」を訪れた際には、広大な敷地に山口の造園技師の指導によって施された美しい日本庭園が広がっており、パンプローナ市民の憩いの場として親しまれている様子を肌で感じる事ができました。そして、スペイン滞在の最後の夜は、在スペイン国日本大使館での夕食会に招かれ、そちらでも大変温かいおも

てなしを受け、感銘を受けところであります。

スペインという国は、やはり日本からは遠く、なかなか気軽に訪れるというわけにはいきませんが、今回の訪問を通じて、山口市とパンプローナ市とは、歴史の縁によって結ばれた人と人との確かな絆によってつながっていることを確信し、今後も、長い年月の中で育まれたこの絆をさらに深めていくとともに、両市の交流が、さらに多様な発展を遂げていく可能性が感じられた今回のスペイン訪問でした。

パンプローナ市訪問団に参加して

山口市国際交流室 来 栖 佳 明



随行として訪問することが決まり、過去の訪問の様子を知ろうと報告書を読み返すとそこには、参加された皆様の驚き、感動、感謝にあふれていました。私は、喜びとともに責任の重大さを感じたのを覚えています。

今回は、5年前のように世界的に有名な「サンフェルミン祭」の期間の訪問ではなく、30周年の記念事業が目白押しとなりました。行程は少し慌しくなりましたが、ナバラ州やパンプローナ市で行われた歓迎レセプション会場の重厚な佇まい、人里離れた中に堂々とその姿を誇っていたハビエル城、そして「山口」の名をパンプローナに根付かせた山口公園や山口図書館、また、陽気で優しさに満ち溢れたスペイン人の姿は、初めて訪問した私にとってどれもが印象的でした。

その中でも特に市民交流事業として素晴らしい成果を残し、私にとってもまた皆さんにとっても絆が深まる瞬間として一際胸に刻まれたのではないかと思います。二つあります。

一つは、現地小学校での文化交流事業として行われたエプロンシアターの披露です。これは実行委員の清水良子様から御提案をいただいたものです。

演じるのは「おおきなかぶ」。日本語で入江幸江様、スペイン語で現地在住の田中沙織様が演じていると、鑑賞している児童たちからスペイン語で「うんとこしょ、どっこいしょ」という意味の掛け声が自然と沸きあがりました。そして今度は児童たちから紙芝居や歌の披露がはじまりました。お互いがお互いのために一生懸命演じる姿に、とても和やかで晴れやかな気持ちになりました。

もう一つは、武器の部屋で開かれました歓迎レセプションです。

両市の挨拶や記念品交換の後、紙芝居とヒガンテスの踊りが用意されていました。サンフェルミン祭の時ではないこの時期に、そしてまさか室内でヒガンテスの踊りが見られるとは思ってもみませんでした。パンプローナ市の方が、はるばる山口から来た私たちのために準備されたことを思うと胸が熱くなり、お互いの友情はしっかりとつながっていると確信しました。

最後になりましたが、5年間というブランクがありながらも、このように素晴らしい交流とすることができました。企画段階から御尽力いただきました多々良孝一様はじめ実行委員会の皆様、御参加いただきました皆様、そしてパンプローナ市側の担当者でありますハビエル・マルキーネス様、通訳の鈴木啓子様、田中沙織様など、私たちの思いを理解して献身的に対応していただいたパンプローナ市の皆様、ありがとうございました。

パンプローナを訪ねて

通訳 梅 沢 雅 代



私は、今まで、様々な仕事を通してスペインと繋がりを持ち、スペイン人と知り合い、友人を作る事もできました。また、学生時代の一時期を過ごした、大好きな国でもあります。

今回、初めて山口市の方々と、パンプローナを訪れる機会を頂き、短い滞在ではありましたが、質の高い密度の濃い経験をさせて頂きました。

様々な場所、訪問先の中でも、最先端のデジタルアートを創造している、メディアラボが強く印象に残っています。

「ネット上で、同じアートプロジェクトを其々の国で独自に発展展開させ、相互に世界に発信していく。」と、メディアラボの対応者が、将来の文化交流の可能性について熱心に話された様子を良く覚えています。

先端デジタルアートの日西交流がそう遠くない未来に始まる可能性について考えているととても楽しくなって来ます。

そして、ザビエル城の美しい姿は、絵画の一部を切り取ったような凛々しさと、鮮明に思い出されます。

今回、初めて民間交流、市民外交にご一緒させて頂き、忘れ難い時間を過ごさせて頂いた事に心から感謝致します。

添乗員 小 松 ま ゆ



この度は、山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 30周年記念事業 公式訪問団の添乗員として参加をさせて頂き、誠にありがとうございました。

私自身スペイン旅行へ添乗する機会がありますが、牛追い祭りで有名なパンプローナへの訪問は初めての経験でした。

実際に訪れ、山口市とパンプローナ市の姉妹都市としての実績、また両市がこの事業を大切になさっている姿を拝見し、大変感動致しました。

少しでも皆様と同じ体験を出来たことを感謝致します。ありがとうございました。



このたび参加させて頂き、ハードスケジュールの中、色々な体験をしました。パンプローナでは市長を初め、多くの人々と出会え感激しました。

また、山口ではだれもが知っているザビエルの生誕地へ行き、日本までたどる道などを知りあらためてザビエルの偉大さに感動しました。

改めて山口市民で良かったと思っています。

また、さくら苗木の植樹も楽しいひとときでした。

姉妹締結 30 周年記念式典に参加して

市民訪問団 伊 藤 貞 夫



私は、山口ナバラの会の会員です。パンプローナ市は2回目の訪問です。前回は、平成 18 年 5 月、聖サンフランシスコ・サビエル生誕 500 年記念祝賀の山口県民間訪問団として訪問しました。

前回は、首都マドリッドからパンプローナ市まで、日中 2 階バスにて車窓から地平線まで続く麦畑の風景等を見ながら移動しました。今回は、マドリッドのホテル隣のコンビニで日本から輸入された米、ソバ、調味料等の食材をみて日本とEU諸国の交流は急速に進

展していると実感しました。

世界遺産トレド観光、マドリッドのドンキホーテ像、王宮見学等は、歴史の一端を見たようです。昼食のメニューに、ナバラの会が山口市民に提供しているスペインオムレツとサングリアがあり、本場の味を知ることができて有意義でした。

今回は、特急列車乗車の往復移動で、風景や車中の幕の内弁当は、ホッと一息でした。夜 11 時前にパンプローナ駅到着となりヨランダ市長さん他関係者の出迎がありました。

滞在期間中は、快晴に恵まれて、山口図書館の訪問では、多くの展示物・図書等が整理利用され、小学校訪問では、エプロンシアターで子供達と一緒に交流、文化遺産の砦において盛大に举行された 30 周年記念式典、さらに、山口公園内に関係者全員が記念植樹した桜苗木は、次の 35 周年頃には、桜花爛漫となって、大内義隆と聖フランシスコ・サビエルの絆が偉大な交流の原点として相互に認識されています。今後も緊密な関係を維持して発展されることを祈念します。

国際交流パート2

市民訪問団メンバー16 人は、スペイン公式行事終了後に、イタリア観光の旅を満喫しました。メンバーは、個性豊かで探究心旺盛な、現役引退シルバーが大半の気まぐれ一行でした。快晴に恵まれ、優秀なJTB柳田添乗員のリードと観光上手に乗せられて、結束力よろしく世界遺産のヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ヴァチカン市国の各名所を元気に、楽しみながらの観光旅でした。Wグループは、地図を片手にオマワリさん教えて、私のホテルは何処なの、アッチ、その先ではコッチの返事にオカムリ、でも無事ホテル到着し、貴重な体験でした。

一行は、行く先々で産地ブランド赤・白ワインを飲み分けてサルデーテ(乾杯)に、また 6 ユーロの生演奏付きコーヒーで、瀬戸の花嫁等大合唱し、ローマの歌付きディナーでは、プロ歌手へのワインと

チップにより、日本の歌の大合唱は、ハポン(日本)此処にありでした。

良き仲間と有意義な国際交流ができましたことに感謝します。

姉妹都市締結 30 周年に参加して

糸 長 三津枝



「山口市って、他にも姉妹都市があったよね?」「確か、スペインよね。ちょっと遠いけど、訪問団募集があったら行きたいよね。」

3 年前、韓国公州市姉妹友好都市訪問団に参加した帰りのバスの中での会話です。それが何と今年の 6 月の市報に募集されているではありませんか。すぐ、韓国に一緒に行った友人に連絡。ただの観光旅行と違った「何かがありそう」という期待と不安をいだきながら申し込みました。

スペインのマドリッドは、以前していた“阿知須お話会”のベアトリス・カベスタニさん(元サビエル高校校長)の故郷でもあり、春にはアーモンドの花が美しい街とのことや寒い冬の工夫した暮らしの様子など聞いていたので、是非訪れてみたいと思っていた所でもあります。ちょうど 1 ヶ月前、東京から防府に來られた時、スペイン旅行の話をする、協会のカレンダーをはずして、「ハビエル城はステキですよ。」と見せられ、益々実際に見てみたい思いにかられました。

あこがれのスペインは、小麦の刈り入れが終わった時期でもあり、飛行場からトレド、マドリッドまでの耕地はすべて、乾ききった砂っぽい土の丘でした。低木が所々で全く想像外の風景でした。わずかに残っている葡萄畑も、乾燥しきっていました。まるで“ミニ砂漠”(まだ経験していませんが)。でも、マドリッドに入ると、風景一変、プラタナスの街路樹、しかも周囲の建物よりも高い街路樹なのです。思い描いていた通り、緑いっぱい、美しい赤っぽいレンガづくりの落ち着いた街でした。

交流公式行事、これは公州訪問では余りに参加人数が多いせいか参加できなただけに貴重な体験でした。ナバラ州政府の豪華な“玉座の間”での式典にまず感動。パンプローナ市では、市役所の入り口から会見の部屋まで、日本の人形や兜、帯などの飾りで歓迎されました。訪問した学校も図書館も“日本週間”が私たちの訪問とあわせて開催されていました。図書館では、生け花で迎えられ、日本の紹介の掲示物、並べられた日本の本やビデオもありました。興味深かったのは、“ホォット俳句”です。「この職員も俳句をしている人が多いですよ」と会話もはずみ、嬉しくなりました。サンホアンディラカデナ小学校での「エプロンシアター」では可愛い低学年の子どもたちはノリノリで、「うんとこしょ、どっこいしょ」を「アーラレウナ!」「アーラレドス!」と身体を揺すりながら大きな声で合唱。観ている私たちも感激し、子どもたちの退場では、一人ひとりとハイタッチをしてしまいました。

スペイン、イタリアと古代ローマ時代から中世の建造物や絵画は美術史や歴史の本の中だけのものと思っていたのが、“目の前にある”それに、ただただ感動。フレンチェのホテルでは、ベッドの上にフレスコ画、ちょっと触れてのフレスコ画鑑賞もできました。

でも、やっぱりこの旅の一番の建造物は“ハビエル城”です。何もない丘の上に、どっしりそびえるサビエルの生家ハビエル城。この城は、この旅でないと訪れることができなかったらう城です。

ふれあいいっぱい、感動いっぱいの 30 周年記念姉妹都市訪問の旅でした。パンプローナの山口公園では、26 本目と 29 本目の桜を植えました。5 年後に会ってみたい気がします。



スペインには過去仕事で2回訪れている。今回は3度目の訪問であった。最初は世界遺産「巡礼の道」を番組化したときである。スタートはフランスとスペインの国境であるピレネー山脈頂上付近から、大西洋の近くにある「サンティアゴ・デ・コンポステラ」(聖ヤコブを祀る)までの約900キロを1カ月かけて撮影した。パンプローナは巡礼の道の東の拠点であり、日本を含めた海外からの巡礼者の落とす外貨は大きな収入源になっている。番組はサンフェルミン祭のエンシエロ(牛

追い)で締めくくった。祭りには1週間毎日通った。市内あちらこちらで珍しいイベントが催される。

市より遅れること23年、山口県とナバラ州が姉妹都市を締結した。それがきっかけで、ナバラ州立大学と山口県立大学が学術協定を結び、交換留学制度が行われている。6年前のサビエル生誕500年イベントで県立大学から教授、学生たちがパンプローナに出向き共同イベントを開催した。この特別番組を制作したことが2回目の訪問となった。この二つの番組を通じてスペイン語がなんとなく解るようになったことは収穫で、今回の30周年番組の字幕入れに大いに役にたった。

もともと記録映像は大切だと思っていたので、今回の訪問でも自前のカメラは携行するつもりでいたが、出発の少し前、市の国際交流室・来栖氏より番組にして貰えないかという打診があり、引き受けた。本来であれば番組化するということはそれなりの製作費がかかるが、市の財政も潤沢ではないことが分かっているので、自分の記念としての無償奉仕ということにした。

当初は観光記録の予定だったが、番組化ということで構成をしっかり考えないといけなくなった。例えばカメラ1台では渡邊市長スピーチの際、ヨランダ市長や訪問団の聞いている表情が撮れない。そこで、カメラは2台携行して、もう1台で聞き手の表情を追った。後の編集で合わせるということである。エプロンシアターでも同様の手法で子供たちのカブを引っ張る生き活きたアクション(こちらの方が重要)を撮影した。州、市それぞれの歓迎式典のあと、セスマ首相やヨランダ市長に単独インタビューできたことで、番組に重みもできた。

ツアーは集団移動が多く、普通のロケのように自由な撮影ができなかった。特に我々市民団の宿泊は、何と！バスで遠く郊外に連れていかれたところにある安ホテルで、簡単には市内に行けない。これが市内のホテルであればスケジュールの隙間をみて市内のいろんな場所を撮影・紹介できたのにと、いまだに悔しい思いである。日本を出発するとき予定していた市街地映像は1割程度しか撮影できなかった。帰国後、過去映像の搜索、ナレーション原稿書き、編集、音声処理と完成まで約1カ月を要した。でも同行した皆さんの好評を頂戴して少し安堵している。皆さん見てご覧になって頂きありがとうございます。

1番最初の番組で運転を担当してくれたコンスタンシオ氏、6年前は会いに来てくれたが今回は会えなかった。高齢だし、心配だ。

スペインの紙芝居そしてエプロンシアター

入江幸江

姉妹締結から30年の月日を重ね、山口から送った紙芝居が今やスペインナバラ州でもブームになり、世界で広がる日本方式として定着するまでになったということは大変嬉しい出来事でした。そして、



今回の訪問の交流イベントのひとつであるエプロンシアター「大きなカブ」(ナバラの会からのプレゼント)を上演した事でさらに私にとっても素晴らしい記念の訪問となりました。エプロンを使ってポケットから次々とキャラクターが出て物語を進めるエプロンシアターは紙芝居と同じく日本で作られたものです。今回スペインで初めてのお披露目となりました。同時通訳として田中沙織さん(スペイン在住・県立大学卒)にお手伝いいただき サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校で子供た

ちの「ア・ラ・デ・ウノ」「ア・ラ・デ・ドス」の掛け声とともに一緒に物語が進んでいったことをアスウンシネラル校長先生が「かわいくとても気に入りました。子供たちも受け入れたようです。これからエプロンシアターを指導者を養成して広めたい。」とおっしゃってくださいました。このことをこの度、一緒に行けなかった清水良子さん(紙芝居プロジェクト代表、今回のエプロンシアターをプレゼントするにあたり最後まで関わっていただいた)に伝えることが何よりのお土産となりました。紙芝居が実際にいろんな場面で上演(小学校で子供たちが作った「○△□」の紙芝居・記念式典での「ヒガンテの物語」)していただいたことまた山口公園にある山口図書館を訪問した時の図書館員さんの紙芝居に対する熱意「紙芝居の作り方」の本を日本から取り寄せて学んでおられることで感じることができました。この度パンプローナ市から創作紙芝居が数点送られました。「ヒガンテの物語」は6地区の市立図書館へまた「ヒガンテス・コンアスパス」は山口中央図書館に置いてあります。パンプローナの子供たちと山口の子供たちの創作紙芝居が交流する日が来ることでしょう。

最後に、この度の訪問で数多くの感激をいただきましたが、その中で特に書きとめたかったこと、それはパンプローナ市役所を訪問した時のことです。市庁舎の正面玄関には30年前に贈った「兜」と歓迎レセプションが行われた部屋にも山口からプレゼントした織物の敷物や日本人形が飾られていました。そのお心遣いに感激いたしました。ヨランダ市長さん並びにスペインの方々には調印式をととても歴史的な出来事として捉えていただいていることを噛みしめた訪問となりました。

iA la de una!
子供達の笑顔

内 田 輝 幸
陸 子



スペイン、パンプローナとの姉妹都市締結 30 周年記念行事に参加出来、山口公園では親睦の桜を植樹。春には両国の桜が満開するようにパンプローナ市と山口市の交流の和がいつまでも続きます事を祈り、又小学校訪問ではかわいい子供のいきいきした笑顔が今でも脳裏にのこっています。ウントコドコイシヨ iA la de una!
a la de dos!

有意義な旅をありがとうございました。
お世話になりました。



歴史が好きで古代ローマに憧れていた。妻と休みがとればイタリアに一度は行ってみたいと思っていた。

サンデー山口に「パンプローナ市と姉妹都市の締結 30 周年とイタリアの旅」の募集がありローマにも行ける。又観光旅行では体験できないその国の人達との交流、ハビエル城も見たい。期待を込め今回の募集に申し込みをした。

旅行の 1 日目はスペイン、トレド、マドリッド観光、翌日ナバラ州政府訪問、パンプローナ市庁舎に市長を(公式訪問の方々と)表敬訪問。どちらの庁舎も古い歴史を内に秘め外観は石造りのガッチリした落ち着きを持っている。バロック様式のファサードが美しい。2階のレセプション会場に案内され、テーブルの上に置かれていた日本人形の敷物に目が止った。亡き父がよく愛用していた西陣織の金襴の反物だった。30 年前姉妹都市締結の訪問団員として持参したもので、おもわず父の面影を垣間見る想いがした。

市庁舎からカテドラル教会、午後市庁舎をあとにバスで北へ。ピレネー山脈の麓ハビエル城に向かう。収穫後のオリーブ、葡萄畑を眺めながらバスで 1 時間。レンガ色の石の塊のような城が見えてきた。

近づくにつれ幼い頃から見慣れていた山口市の旧ザビエル教会と同じパラ窓が目に入った。この城が山口市とパンプローナ市との姉妹都市のシンボルであり、なつかしく思えた。

翌日、山口図書館、小学校を訪問。エプロンシアター、紙芝居、現地の子供達との交流。シウタデラ公園の武器の間での歓迎レセプション、パンプローナ市主催で行われた式典、楽しいヒガンテス(巨人人形)の踊り、日本の紙芝居、近くの山口公園で桜の植樹、立食パーティーでは、スペイン在住の通訳の方との会話で名前を聞かれ“大隅です”と答えると、“第 1 回締結時に訪問された大隅さんの息子さん?”と父のことをよく覚えておられ、訪問時のエピソードを話していただく中でおもわず胸に熱いものがこみあげてきた。

パンプローナ市での二日間の公式行事への参加及び観光を終え、列車でマドリッド空港へ。公式訪問団と別れイタリアへ。水の都ベネチアではゴンドラにゆられ町の中を練り歩く。サン・マルコ広場では生演奏を聞きながらのコーヒー、日本の曲が聞こえてくるとみんなで合唱。ホテルに帰る船の中も合唱が続く楽しい旅である。

ローマではコロッセオ、スペイン広場・バチカン・サン・ピエトロ寺院を見学。ローマの遺跡は非常に多い。再び訪れることができるように…トレビの泉の水に背を向け硬貨を投げ入れた。

最後の夜、すばらしいボリュームの歌声、カンツォーネを聞きながらワインと食事。イタリアムードに酔いしれた。

今回の旅行ではパンプローナ市長をはじめ、多くの皆様の温かいおもてなし、ナバラの会の多々良会長、同行された皆様には初めての私共にとっても気を使って頂き感謝しております。機会がありましたら再び訪れたいと思っている。



「アーラレ・ウノ」「アーラレ・ドス」…(「うんとこしょ」「どっこいしょ」)…笑顔の子どもたちは、演じるI女史と一緒に声を出し体を動かしている。

日本の子どもたちも大好きな「大きなかぶ」のエプロンシアター。

「アーラレ・ウノ」「アーラレ・ドス」で引き上げられた大きなかぶに歓声と拍手がおこる。

パンプローナ市の小学1・2年生は、たどたどしい日本語で「おはようございます」と口々に言いながら会場へ入ってきた。ちょこんとすわった子どもたちの髪の毛が揺れる。ちらちらとこちらを振り向きながら先生の説明を聞いている。先生方の「静かにして」というサインも日本と同じである。エプロンシアターを楽しんだあとは、日本の子どもの誰もが知っている「ぼくらはみんな生きている」の歌を女の子が独唱でお返ししてくれた。よく通る優しい声であった。

子どもたちの時代はすぐにやって来る。パンプローナ市と山口市のつながりを起点として、これから全世界が友好状態になり平和に向かって歩まねばならないと思う。乾いた丘の上に建つハビエル城に生を受け、この石畳を歩いたであろうフランシスコ・サビエルから発して結ばれているこの深い繋がりを現代の子どもたちに伝えていきたいと思う。

山口公園の桜が毎年美しく花をつけ、滝からは涼やかな水を流し続けるように、これからもパンプローナ市と山口市の友好が深まり、互いの発展と広がりを祈りたいと思う。

広大なスペイン、そして足をのびしたイタリアの旧くて荘厳な美しさ等々、それはそれは多くの感動を味わった。その素晴らしさを私の語彙能力ではここに表すことができないが、小さな感動の一つ二つを挙げてみたい。

・パンプローナ市の図書館に入ると「Nastume Sōseki」が説明されていて、見慣れた彼の写真が目飛び込んできた。女性司書は通訳氏を介して、にこにこしながら「坊ちゃん」も「我が輩は猫である」も彼女の愛読書であり、彼女の長女は宮崎駿氏の「となりのトトロ」のファンであると。私たちは一緒にトトロの歌を歌って笑いあった。見ると「GeGeGenokitaro」も置いてあるではないか。私は異国で知人にばったりであったような懐かしさと喜びを感じた。

・ベネチアのカフェ FLORIANN でのこと。カプチーノを味わっていると生演奏で「上を向いて歩こう」と「瀬戸の花嫁」の曲が流れてきた。何だか嬉しくて思わず声をあげて歌ってしまった。こんな小さな小さな感動の数々と大きな感動を山と積んだ忘れられない旅であった。

そして、訪問団の方々との温かい出会いに心から感謝したい。

ザビエルより、幸いをあらたに

桑 原 理 恵

ふしぎなご縁でナバラの会にみちびかれ、4 回目のパンプローナ市訪問となりました。幾度訪れても、山口の市街もこうであったらなあと思われる中世以来の街並みの変わらぬ美しさに嘆息しながら、いっばうで旅人であることを忘れそうな落ち着きや安心感をあたえてくれる、ほんとうに素敵なまちです。

二市はともに大学町。このたびは、山口県立大学とナバラ州立大学との交換留学がゆたかに実りつつあることを実感する温かいご協力を、元留学生のふたりの若い女性、田中沙織さんとベロニカ・セラノさんから頂戴することができました。現地で勉学を続けておられる沙織さんのエプロンシアターでの大活躍(彼女なくして今回の成功はなかったことは誰の眼にも明らかでしょう)に感激。彼女は半年も前から訪問団の日程を問い合わせ、協力を申し出てくれたのです。

県立大学に昨年留学されたベロニカさんは、現地の市庁舎で私たちを待っていました。上手な日本語で付き添ってくれたおかげで気軽にあれこれ質問でき、何度めかの旧市街や大聖堂ながら新たな発見が続々。彼女が日本語で紙に書いて用意した(きっとずいぶん時間を費したことでしょう)パ市の歴史と建物の説明を市庁舎前の広場で、渡辺市長さんや野村議長さんを前に一生懸命読んでくれた光景がいまも甦り、心が温かくなります。

大内氏の拓いた中世以来のまち山口と中世ナバラ王国の古都パ市とをむすんだザビエルに、いまなおみちびかれている幸いを感じたことでした。

パンプローナ市・スペイン・イタリア 10 日間の思い出

武 永 喜代栄



福岡・成田から始まり、両隣を旅慣れた風の男女にかこまれ、トイレに立つのも気にしながらの、12 時間の長い、長いフライトはこの旅の中で一番つらかったことです。

マドリード泊、ルームキー、ルーム灯スイッチの扱い、ふろ水、シャワーの使い方に戸惑いつつ、トイレのビデにはびっくり！洗濯でもするのかと、思ったものでした。後で「お尻を洗う」と聞いて、古き良き？文化を見たものです。伝統を守り続ける意識に、日本のウオシュレットはとんでもない、と言うところでしょうか。

マドリード市内見学、カトリック総本山、スペイン広場、プラド美術館と目まぐるしく見て歩き、美術館では、荷物になる、重いなど思いつつもガイドブックを買い求めました。列車にて、今回の目的訪問地、パンプローナへ。車内で、隣り合わせになったスペイン女性にドキドキ。あわてて出発前に貰ったマニュアルを見て「オラ・ソイデハボン。パンプローナ。アデイオス」と国際交流、出来た！ほっ！と胸をなでおろしたものです。

いよいよレセプションの始まり。重厚感あふれる荘厳な王宮でのナバラ州知事ほかの皆様との交流。萩焼や大内人形は喜んでいただけたでしょうか。紋章入りのスカーフをありがとうございました。続いてパンプローナ市庁舎で、ヨランダ市長の歓迎をうけました。

美しく威厳ある、女性市長に驚き、また、次期州知事立候補への意欲をもお持ちと聞いて、ますます感嘆しました。立食での昼食会、ジャガイモを使ったスペインオムレツ、生ハム、カナッペ風お料理、ワインと共においしくお腹いっぱい頂きました。ごちそうさま。

翌日はスペイン市内の視察。図書館へ 500 ユーロを寄贈。小学校では、子供たちと「おおきなカブ」のエプロンシアターの上演に、国境を越え、心と心が通じ合え、一つになったと、感動しました。日本の子供も2、3人いました、子供たち、かわいかったですよね！

次に武器庫を見学し、武器の館で文化交流。演奏や踊り等パンプローナ市の文化を目にし、大いなる歓迎に感謝です！重ねて、昼食会へのご招待の豪華なこと。ワイン、お料理もこの上なく、おいしく、ヨランダ市長との記念撮影にも大感激でした。

この度の、30 周年記念事業訪問団、山口からパンプローナ市訪問が、新聞で掲載されたので、記念に買い求めました。同行したみなさんの写真が載っていましたよ！

これで、訪問団のお仕事は終了、お疲れ様、やはり少し緊張しましたよね。

午後、ザビエルの生誕地、ハビエル城を見学し、ザビエルの偉業を知りました。空路にてミラノへ、ミラノ泊。残念ながら今回は、ミラノ観光はなし。

バスにてベネチアへ。ためいき橋で大きなため息を一つ。サンマルコ広場へ。鐘楼へ上り、街の全貌を目にし、海に浮かぶ運河の街に驚嘆！夢の国？ゴンドラで運河を散策、水の臭いが気になる、今のうちに対策を打たねば、と要らぬお世話。誰か、ゴンドラ運賃を重ねて払ったとか、支払わなかったとか？添乗員さんをひやりとさせた一場面あり？

バスにてフィレンツェへ。車窓の景色は何処をとっても絵になるなと眺め続ける。この間の添乗員さんのお話もうれしかったです。街に着くと、ベッキオ橋を渡り、ドウモへと街の様子を案内がてらの市内観光後、さあ自由行動。地図を片手に 4 人グループで、いざ、スーパーへ。勇んだものの、ウロウロ、キョロキョロ。そこへ日本人女性が声をかけてくれて「案内するわ」と言ってくれて、ほっ！親子 3 人でお出かけの途中だったようで、自宅の少し向こうがスーパーだと教えてくれた。手前でここが私の店だということで、入って見ようかと気軽にのぞくが、あれ、あれ 4 人とも、バックを買っていましたよ。無事スーパーで買い物を買って、アイスクリームで一休憩。さあホテルへ帰ろう。おやおや、どっち？こっち？あ！ポリスマン、ポリスマン、ありがとう。あれ？また同じ所へ来ちゃったよ。ポリスマン、ポリスマン！あっちね、ありがとう。あつた！あつた！あそこだ！着いた！着いた！30 分前無事到着。無事でもないか。フィレンツェ泊、シャワーに手が届かない、洋服が掛けられない、椅子に乗って掛ける。自分の身の丈の低さを再確認。

ローマへ。コロッセ、バチカン王国、トレビの泉、ここでは、再びご縁がありますようにと、5 円玉をボーイ！ローマの街は、点滅ネオンが禁止とのことで、夜も夜明けも、静かで暗く、さみしい感じがしたが、古き良き街並みは忘れられない。まだ日の昇らない朝闇の中、ローマ終着テルミネ駅を横目に、一路空港へ、帰国の途に。

訪れた各地は古き良き時代の文化遺産を大切に残しつつ、ゆったりした時間が流れているようだが、観光客の熱気のみが目につく。観光地での治安の悪さにご用心とのことで、添乗員さんの気遣いに感謝します。食において、ワインをはじめ、タパス料理や、スパゲティ、ピザ等、ほぼ国内にも流通していて「地球は一つ、一緒」の感じがしました。

帰国し、まず目にした景色は、初秋の「彼岸花」の赤から、晩秋の「せいたかあわだち草」の黄色でした。家に帰り、まずしたことは「ただ今、元気だった！」とお花に水をあげたことでした。

市長さんをはじめ、市職員の方々、添乗員の柳田さん、同行させていただいた皆様、お世話になりました。思い出をたくさんありがとうございました。

2010 年 10 月末日

山口市・パンプローナ市姉妹都市締結 30 周年ツアーに参加して思う。

(15 周年の「山口公園」開園式に参加して以来 15 年間の回想)

藤 村 尚 美

山口市にとって姉妹都市締結から早くも 30 年。ナバラ州パンプローナ市へは、15 周年の記念に、本格的な和風づくりで、滝から流れ出る水、あずま屋あり、噴水ありの日本庭園「山口公園」(パルケ・デ・ヤマグチ)が立派に完成し、その開園式に訪れて以来、今回で 5 回目の訪問となりました。15 周年の当時のハビエル・チョウラウト市長は山口公園を「友好の果実」と賞賛され、今では市民の憩いとくつろぎの場であり、出会いの場、交流の場ともなっており嬉しいことです。



15 周年には、山口市民訪問団が 40 名参加し、これが縁で誕生したのが『山口ナバラの会』なのです。2000 年(平成 12 年)5 月の 20 周年記念式典には 20 本の桜の苗木を植樹しました。この時よりパンプローナ市の市長さんは女性となり、笑顔が素敵なヨランダ・バルシナ市長です。それ以来 20 周年を記念しての相互訪問が翌年になって、ようやく実現の運びとなったのです。実に喜ばしい限りです。それは 2001 年(平成 13 年)7 月から 9 月末日まで、「21 世紀未来博覧会(愛称:山口きらら博)」が山口市で開催されまし

たが、パンプローナ市長ヨランダ・バルシナ市長とナバラ州政府知事ミゲル・サンス・セスマ首相が来山され、ヨランダ市長はご主人のホセ・バジュゴ氏を同伴されました。

山口市での記念式典・祝賀会が盛大に開催され、琴(生田流)や日本舞踊(花柳流)大歳子供太鼓を演じ、余興では私のハーモニカの伴奏で佐内正治市長が声高らかに歌うと会場の雰囲気が和やかになりました。式典後「山口ナバラの会」の会員の手により茶席を設け、「まっ茶」の持て成し等、ヨランダ市長ご夫妻、佐内市長ご夫妻共々大変満足され嬉しいと喜ばれた様子が強烈な印象として残っています。

2002 年(平成 14 年)にはナバラ州政府の夏祭りに招待され、フランシスコ・サビエル没後 450 年を記念して日本文化を紹介する「ナバラ祭り」にも参加しました。山口民踊友の会の人に協力して頂き、「男なら」「花の騎兵隊」「岩国音頭」など 8 曲の民踊の踊りと「着付け」の実演のステージで会場は盛り上がり大成功を納めました。この時、州政府のラグナ文化大臣より「山口ナバラの会」の多々良会長と「山口民踊友の会」の矢野会長に対し「“友好の絆”の楯」が贈呈され、予期してなかったので大感激したものです。

ちなみに、山口市とパンプローナ市は、1980 年(昭和 55 年)に姉妹締結ですが、山口県とナバラ州は 2003 年(平成 15 年)に「きらら博」を契機にサビエルの歴史的出会いを縁に姉妹提携しており、山口県立大とナバラ州立大の学術交流協定もなされ、山口市とパンプローナ市の姉妹交流と連携して国際交流の推進が図られています。余談ですが「山口ナバラの会」としては、山口市及び山口県のそれぞれの行事に、おつき合いで嬉しい悲鳴とも云えるでしょう。「ナバラ祭り」の会場では、山口市へ来訪されたヨランダ・バルシナ市長やパンプローナ大聖堂合唱団の指揮者アウレリオ・タガセラ氏にもお会いすることができ握手を求められ大変嬉しく「出会いの大切さ」を強く感じたものです。

2006 年(平成 18 年)には二井関成山口県知事を団長に、サビエル生誕 500 周年記念セレモニーへ「山口県・ナバラ州友好訪問団」として「山口ナバラの会」や「第九を歌う会」など総勢 100 名位の参加者でにぎわいました。

特に、アンディ・フロイデ合唱団とパブロ・サラサーテ音楽院の合唱団・オーケストラによる合同演奏は拍手喝采で、感激・感動の涙が溢れ胸を打つほどすばらしい国際交流でした。この“サビエル 2006”と同じ年に、日本最大の文化の祭典“国民文化祭やまぐち 2006”が開催され、サビエル 2006 で演じたナバラ州ツデーラ市民舞踊団が国民文化祭のために来山されました。その機会にホームビジットで私の家にも来られ食事を共にしたり、旭幼稚園の園児達と女性のフェルナンデスさんのアコーディオン伴奏で愉快地にフォークダンスを踊ったり、期間中にはツデーラ舞踊団の鑑賞をしたり、山口県フォークダンス連盟の会員(私もその一人)の仲間達と一緒に輪になって楽しく愉快地に交流できたことは至上の喜びでした。

「姉妹都市締結の 30 周年」の 2010 年(平成 22 年)10 月には、渡辺純忠市長を団長に 23 名がパンプローナ市を訪れ、10 年前からもお会いしているミゲル・サンス首相やヨランダ・バルシナ市長さん

にも再会でき一段と親しみを感じ懐かしく嬉しい思いが強く心に残りました。恒例の記念植樹、記念事業、表敬訪問、サビエル城見学など盛り沢山の行事がありましたが、特筆すべきことは、小学校を訪問したとき「山口ナバラの会」の入江幸江さんが、小学生の前で「エプロンシアター」で「大きなかぶ」を演じられ子供達は大喜び、その嬉しそうな表情やはしゃぐ姿を見て、胸が熱くなり、思わず涙が込み上げ感動させられました。熱演が子供達に「人に優しく親切にする心」や「仲間と協力する大切さ」などがきっと通じたからでしょう。嬉しかったです。図書館にも訪問しましたが、「山口ナバラの会」が「紙芝居」を沢山贈呈しているのをよく活用され、子供達に大変人気があり成果が上がっていることが報告され、国際親善、国際交流に貢献できていることを何よりも誇らしく嬉しく思いました。「大内義隆とフランシス・サビエルの取り持つご縁」に感謝するとともに、国際交流・国際親善が尚一層深まりますことを祈念致します。

30 周年記念としての後ののお楽しみ旅行は、イタリアのベネチア、フィレンツェ、ローマの旅は仲間にも天候にも恵まれ最高でした。ありがとうございました。

パンプローナとイタリアの旅に参加して

藤 村 深 雪



10 月半ばから 10 日間、快適な気候の下、公式訪問や行事の参加の後、憧れのイタリアをバスや列車で移動しながら観光しました。

ベネチアでは運河をゴンドラでめぐりました。旅行パンフレットで見るよりも運河は生活排水で汚れており、船頭さんのカンツォーネ歌声もなく、見ると聞くとの違いを実感しました。

船賃は 55 ユーロでしたが、船から降りようとしたとき添乗員さんが向こう岸から「チップは払ったからねー」と叫び、私たち 5 人は料金だけを支払うのだと勘違い、帽子を受け皿にして何か声高にやってきたおじさんに、各自お金をいれました。遠くから見ていた添乗員さんが駆けつけて「今お金払った？誰が帽子にお金入れなさいと言ったかね！」と言いながら急いでおじさんの所へ行き「間違ってお金入れたんだよ」とおじさんから取り返して下さるという一幕もあり思い出す度笑ってしまいます。

おじさんは僅かのチップを請求したのに、あまりの大金に喜んで立ち去ろうとしたところ添乗員さんの説明に「あーそうか」と返金し、ガッカリだったとか。

添乗員さんありがとう。脇の甘い人間を連れ歩くのにさぞお疲れだった事でしょう。

フィレンツェではドゥオモを入場見学しましたが、観光客ぎっしり。拘りが多いと聞いてカバンをしっかりと押さえておっかなびっくりでしたが、どうにか無事でした。

恒例にならい、泉に後ろ向きでコインを投げ入れました。

ローマではコロッセオ見学。写真で見るとおり半壊状態の大きな土の建物で、この中でくりひろげられたであろう出来事を想像し、はるか昔へ思いを馳せるひと時でした。

バチカン市国は寺院入場者が余りに多く外からの観光になりましたが、テレビニュースでお馴染みの、白か黒の煙を出して法王を決める、例の“コンクラーベ”がされる煙突を見「あーあれだな」と納得しました。

次回テレビを見れば、より親しみが沸くことでしょう。

古代西洋の石の文化をたくさん見ました。石であれ、木であれ、西洋であれ東洋であれ人間の営みや考え方には、相通ずるものがあるなと感じました。

列車、ホテル、観光地、車窓の風景それぞれに特徴があり日本から遠く離れたヨーロッパに來たのだなーと再度訪れることがないだろうそれらを心に焼き付けてきました。

海外に行く度に感じることは“**日本は素晴らしい**”ということです。そう思いながらも又、次は〇〇へ行きたいなーと考えてしまいます。旅は本当に素晴らしい！

添乗員 柳 田 実



過日を振り返るにあたり、最初にこの機会を頂いた事に先ずは感謝申し上げます。

また、ご同行頂きました、渡辺市長始め野村様、鯨田様、重見様、来栖様の公式訪問団の皆様にも感謝の言葉しかありません。私は、市民団の担当で団長の多々良様始め15名の市民の方々と共にご一緒させていただく時間が多かったのですが、若輩者の私にもいつも皆様方があたたかく接していただき、誠にありがたく思いました。思い起こせば、11日間を振り返ると、全体的には、前半のレセプションも滞り無く終了しました。また、市民団の皆様は、後半のイタリア研修も皆様楽しまれ、全員元気に帰国できました。

10月18日に、ドイツ・フランクフルト経由にてスペイン・マドリッドに到着しました。出発の成田空港から今回は最新鋭の2階建ての航空機A380の搭乗で少し興奮気味にて日本を離れました。翌日の19日には、マドリッド・アトーチャ駅よりパンプローナ市へ移動し、パンプローナ市に到着後は遅い時間にも関わらずとても友好的な歓迎を受けました。

20日にはパンプローナ州政府のレセプションに立会わせていただき、州政府首相のお言葉もいただきました。お昼には、市庁舎にて立食レセプションもとても雰囲気がよく、市長自ら接していただいたのが印象的でした。そして、山口市とも馴染みが深い、「ハビエル城」の見学もさせて頂き、山口市との関わりの強さを改めて感じました。ハビエルとは余り耳にしない言葉だったのですが、フランシスコ・ザビエルことで、山口市のザビエル記念堂とも、とても関係があるとのことを知ることができました。

21日には、パンプローナ市にて日本展も開催されている図書館にてのレセプションでしたが、日本の文化や映画などが紹介されていてとてもパンプローナ市との関わりの強さをまたまた、実感させられました。また、会場を移しての、日本庭園での「桜の植樹」も、渡辺市長とパンプローナ市長との共同作業で問題なく終了しました。桜の植樹もさることながら、現地の日本庭園の素晴らしさも実感させていただきました。非常に大切に日本庭園が管理されており、市民の憩いの場所にもなっているとのことでした。

今回、スペイン・パンプローナ市の姉妹都市の式典に立ち会うことができ、また終始、友好的また和やかな雰囲気でのレセプションでしたので、とても私自身も思い出に残る物になりました。公式訪問団と市民団の連携も素晴らしかったと思います。スペインは毎日良い天気にも恵まれましたし、市民団後半のイタリアも天候が良かったことも幸いでした。

最後にもう一度申し上げますが、渡辺市長は勿論、ナバラの会、すべての方々がとても良い方々で本当に仕事抜きでもお付き合いさせていただきたい方々でした。そして、とても家族的にも接していただき、感謝！感謝！です。毎日が大変ながらも楽しい日々を過ごさせていただいたことに心よりお礼申し上げます。

最後にいろいろと、至らない添乗だったかもしれませんが、今後とも機会がありましたら宜しくお願いいたします。皆様方のご健勝をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。

思い出アラカルト



成田空港で出発前の団結式



世界最大級の航空機 A380 で成田出発



フランクフルト空港での乗り継ぎ



長旅の疲れもない様子



マドリッド到着はちょうどラッシュアワーでした



日本より豪華で勇ましい？観光バス



世界遺産トレド



マドリッドで現地最初の昼食



19 日午後、公式団は LA CASA ENCENDIDA 視察



19 日午後、公式団は LA CASA ENCENDIDA 視察



MEDDIA LABO PLADO 視察
マルコスガレシアさんの丁寧な説明



館内で制作中の作品の説明をうける



いよいよ列車に乗ってパンブローナへ



アトーチャ駅



車内でゆっくりと夕食



深夜にもかかわらずパンブローナ駅では
ヨランダ市長のお出迎え



20日ミゲル・サンス・セスマ
ナバラ州首相のスピーチ



州政府で全員で記念写真



多々良会長も首相気分？



訪問記録を撮り続けていただいた入江正敏様



サンタ・マリア・デ・パンプローナ大聖堂では、
カルロス・アンジェラ・ソラ主任司祭じきじきにお出迎え



説明に熱心に耳を傾ける訪問団



広い聖堂にため息



パンプローナ市役所で渡辺市長スピーチ



多々良会長からエプロンシアターのプレゼント



市役所で全員で記念写真



パンプローナ市役所



パンプローナ市内の模型



シビボックス コンデスタブルで立食形式の昼食



シビボックス コンデスタブルで立食形式の昼食



藤村さんのお得意のハーモニカ演奏



みんなで大合唱



ヨランダ市長から全員にスカーフのプレゼント



ハビエル城



アロント神父様からは、包み込むようなあたたかさがにじみ出ていました



城内で遊ぶかわいいこども



オリテ城(到着が遅く中に入れませんでした)



ちょうど日本文化を紹介するイベント中でした



21日 山口図書館



館内には紙芝居が展示されていました



山口ナバラの会から 500 ユーロが図書館に贈呈されました



サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校



入江幸江様と現地に滞在する田中沙織様
によるエプロンシアターの上演



子供たちは大喜び



今度は子供たちから紙芝居の上演



多々良会長からエプロンシアターのプレゼント



校内には紙芝居のポスターが



歓迎レセプションが行われるシウラデラ



会場となる武器の間



正面両サイド垂れ幕(向かって左)



正面両サイドの垂れ幕(向かって右)



訪問団も厳かな雰囲気緊張気味？



生演奏でムードを一層盛り上げます



渡辺市長からヨランダ市長へ萩焼の贈呈



ヨランダ市長から野村議長へ巨人間人形の飾り物の贈呈



記念イベントとして紙芝居の披露



続いて巨人人形の舞踊



思わぬおもてなしに館内一同歓喜の声



山口公園



山口公園



こいのぼりの掲揚



市民訪問団全員で記念植樹



最後の昼食で話に花が咲きました



最後の昼食で話に花が咲きました



最後の昼食で話に花が咲きました



水は道中の必需品、バスの中でドライバーさんが販売して下さい助かりました



ベネチア・サンマルコ広場にて



ベネチアの中心、サンマルコ広場にて



ベネチアのサンマルコ広場にて、
サンマルコ寺院を見上げる一行



サンマルコ寺院の内部
規模と重厚感は圧倒的なものでした



ベネチアン・ガラスの工房を見学しました
素晴らしい手仕事は伝統です



ベネチアの運河
憧れのゴンドラに乗りました



ベネチア、サンマルコ広場の鐘楼に登りました
美しい中世の街並みが一望のもとに



フィレンツェでは昼食の中華料理に皆ほっと一息
西欧料理に食傷気味の胃を休めました



フィレンツェのヴェッキオ橋を望む



フィレンツェ郊外の、街を一望する高台にて



ベネチアは夜景も幻想的で素晴らしいです



ローマ、コロッセオ前にて



バチカン市国の中心、サンピエトロ広場にて



ローマ市街の落ち着いた街並み
風格に満ちていました



ローマ郊外のフィウミチーノ空港から帰途に
少々お疲れのご様子？



旅の終わり、ローマでの夕食
カンツォーネの生演奏を聞きながら



トレドの泉
またローマに来ることができますように！



ローマ、スペイン広場は大混雑
上まで登りローマ全景を楽しみました



ローマでの夕食

紙 芝 居

-Kamishibai-

今回の記念事業では、訪問先のサン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校とパンプローナ市から、紙芝居の披露と贈呈がありました。訪問した私たちにとっては特別な思いがするおもてなしでした。

パンプローナ市は、かねてから日本文化の普及教育には熱心なところ です。

その中で紙芝居は、幼少期の教材として特に高く評価され、そして子供たちにも大変な人気を集めています。

これまで、山口市や山口ナバラの会は紙芝居を寄贈するなど、パンプローナ市の紙芝居普及のお手伝いをしてきました。

今回のおもてなしは、両市民が物の交流だけでなく常にお互いの心が通いあう交流をしていることの表れだと感じています。

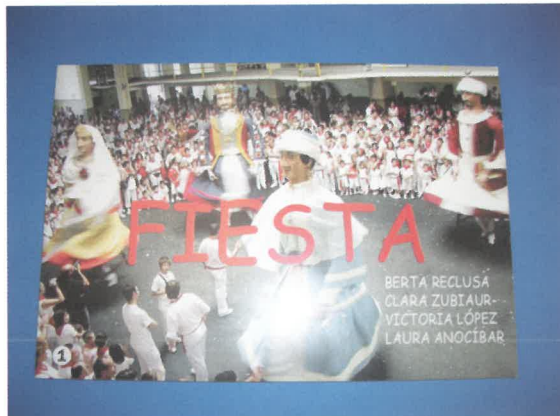
現在、これらの紙芝居の今後の活用について検討を進めています。

次代を担う子供たちがパンプローナ市を身近に感じ、そして友情を育み、末永い両市の交流発展につなげていってほしいと願っています。

サン・ファン・デ・ラ・カデナ公立学校から贈呈された紙芝居



パンプローナ市から贈呈された紙芝居



11月21日午前中、姉妹都市30周年記念式典が行われた会場「武器の部屋」に一枚のパンフレットが置かれていました。

これは、「紙芝居友好協会」という団体が発行しているパンフレットです。

中には、次のようなことが書いてあります。

紙芝居がパンプローナ市に根付き、たくさんの方が関心を持たれていると感じました。

- ・紙芝居は、他の読み聞かせよりも意義が深く、創造性を豊かにするために効果的な教材です。
- ・紙芝居の意味は「紙の劇」で、日本で一般的に知られている物語を語ります。
- ・紙芝居は、楽しく学ぶことができる教材の一環として用いられています。
- ・紙芝居の語り手は、枠の中の物語を小さな舞台を演じるように語り、子供たちはその声を魔法の言葉を聞いているかのようにイメージを膨らませ、夢中になって聞き入り、怖くてわめいたり、大声で笑ったりします。
- ・紙芝居の理解には、語り手と聞き手が共感して楽しむことが必要です。
- ・紙芝居の効果として次のものが挙げられます。
 - 文書を作ったり話し方が上手になる。
 - 読書や筆記が伸びる。
 - 生徒達が行う活動の中で責任感が伴うようになる。



Sesiones
de información
y debate

PROPUESTA
DE GESTIÓN
TRATAMIENTO
DE LOS RESIDUOS
DE LA COMARCA
DE PAMPLONA

Viernes
22 de octubre

**REDUCCIÓN
EN LA
GENERACIÓN
DE RESIDUOS
URBANOS**

Montserrat Soliva
Profesora jubilada
de la Escuela Superior
de Agricultura de
Barcelona. UPC

Ramón Plana
Consultor Tratamiento
Biológico de Residuos

Jean Jaques Dohogne
Responsable de proyectos
de la Asociación de
Ciudades y Regiones para
el Reciclaje y la Gestión
Sostenible de los
Recursos (ACR+)

Información:
901 502 503
Inscripciones online:
www.mcp.es

Plena Condensada 9.00 h



Durante ayer y hoy una delegación oficial de la ciudad japonesa de Yamaguchi visita Pamplona para conmemorar el 30 aniversario de la firma del hermanamiento entre las dos ciudades



La delegación de Yamaguchi posa con parte de la corporación pamplonesa en el zaguán del Ayuntamiento.

CALLEJA

Yamaguchi, 30 años después

A.O.
Pamplona

AUNQUE el aniversario oficial se cumplió el pasado 18 de febrero, a ninguna de las dos partes celebrantes les ha molestado retrasar ocho meses la conmemoración. La ciudad japonesa de Yamaguchi y la capital navarra disfrutaron desde ayer y hasta hoy jueves de sus 30 años de hermanamiento con dos jornadas repletas de actos y visitas que concluirán hoy con la plantación de nuevos árboles en el jardín japonés del parque de Yamaguchi.

La delegación japonesa, encabezada por el alcalde de Yamaguchi, Sumitada Watanabe, y conformada por otras 23 personas, fue ayer prototipo de las buenas maneras. Por la mañana, después de ser recibidos por el presidente del Gobierno, Miguel Sanz, visitaron el recinto catedralicio sin que apenas se notase su presencia, pese a que casi todos los miembros de la delegación portaban sus cámaras de fotos o vídeo y recorrieron buena parte de las dependencias.

El propio deán, Carlos Ayerra, ciceroneó en buena parte de la visita, no dudó en contestar a las "muchas gracias" que le dio el al-

calde Watanabe, con un elocuente: "Muchas veces", e intercambiaron varios regalos (un libro sobre la catedral para la delegación, y un llavero y unos palillos para comer para el cabildo).

La jornada matinal continuó en la Casa Consistorial, donde el grupo nipón fue objeto de una recepción por parte de la alcaldesa Yolanda Barcina y de la Corporación. "Pamplona es su hogar y los pamploneses somos sus hermanos", les dijo Barcina para darles la bienvenida y reconocer que los 30 años transcurridos de hermanamiento han sido un ejemplo de cordialidad.

"A pesar de que acabamos de

conocernos siento que somos amigos desde hace años", le testó Sumitada Watanabe, el alcalde de Yamaguchi, que agradeció a sus antecesores haber sabido mantener los lazos de la estrecha relación a pesar de la distancia que separa Pamplona de Yamaguchi.

Finalmente intervino Kouichi Tatara, miembro de la Asociación de Amigos de Yamaguchi-Pamplona, y también jardinero que diseñó el jardín japonés de Pamplona en 1995. Tatara agradeció los cuidados y el mantenimiento de su obra y resaltó que los cerezos plantados son símbolo de amistad.

SUMITADA WATANABE ALCALDE DE YAMAGUCHI

"La crisis se empieza a notar en Yamaguchi"

A.O.
Pamplona

Sumitada Watanabe, de 65 años de edad, afronta su segunda legislatura como alcalde de la ciudad japonesa de Yamaguchi, de 200.000 habitantes y por lo tanto muy similar a Pamplona. Watanabe representa a los independientes y como tal fue elegido directamente por los electores, aunque en el consistorio nipón están también representados los demócratas (con varios grupos) y los comunistas.

¿Qué impresión le ha causado Pamplona a pesar de lo poco que todavía ha podido conocer? Lo primero que he percibido es la distancia tan grande a la que se

encuentra de Japón. Estamos en las antípodas. Yo no había estado nunca, y tampoco había estado en España. Pamplona me ha parecido una ciudad de una gran belleza y con una gran hospitalidad también.

¿Qué presupuesto maneja el Ayuntamiento de Yamaguchi? El de este año equivale a unos 672 millones de euros (el de Pamplona asciende a 258 millones).

¿Y cuáles son sus principales inversiones?

Las partidas más importantes son para Bienestar Social, principalmente para la atención médica de la tercera edad. Luego está el gasto para el cuidado de las personas y para construir jardines de infancia. Después viene el gasto en educación y luego las



Sumitada Watanabe. CALLEJA

obras públicas, construcción de infraestructuras o carreteras. ¿Es buena la situación económica del Ayuntamiento? Estamos endeudados. ¿Hay crisis económica también en Yamaguchi? Es algo que se empieza a notar

poco a poco. La gente joven que termina una carrera en la universidad tiene problemas para encontrar trabajo en su profesión. En estos momentos la tasa del paro es del 7 por ciento.

¿Y se pueden tomar medidas desde el consistorio?

No se puede hacer mucho, pero sí entregamos, por ejemplo, un subsidio a las empresas que contratan a nuevos trabajadores. Y el propio ayuntamiento genera puestos de trabajo, aunque sean provisionales.

¿Ve futuro en la relación con Pamplona?

Se ha mantenido durante 30 años, así que puede continuar. Cada 5 años organizamos una visita, pero también fuera de ese viaje organizamos un festival anual para dar a conocer Pamplona en Yamaguchi y que este año se celebra a comienzos de noviembre. También colaboramos con la biblioteca de Yamaguchi y hacemos llegar a nuestros ciudadanos los mensajes que manda la alcaldesa de Pamplona.

山口市 ―30年後―

日本の山口市公式訪問団と市民訪問団が、昨日から今日にかけて、両市の姉妹都市締結30周年記念行事として、パンプローナ市を表敬訪問している。姉妹都市締結記念日は2月18日だったが、記念祝賀事業が8ヶ月遅れても構わないということで、昨日から今日にかけて二日間の予定で姉妹都市締結30周年を記念した行事が執り行われる。最終日には山口公園で苗木を植樹する予定。

渡辺市長を団長とする23名の日本からの一行は、午前中ナバラ州サンス首相主催の歓迎式典に出席し、大聖堂の大部分を見物した。ほとんど全員がカメラを携帯していたが、マナーをわきまえた行動をしていた。カルロス・アイェラの大聖堂参事会長が訪問団に大聖堂を案内した。渡辺市長の言葉―「ムチャス・グラシアス」に対して「ムチャス・ベセス」と返事をし、その後両者は記念品の交換をした。大聖堂参事会長は大聖堂についての本を贈呈し、山口市側からは箸を贈呈した。

*Muchas gracias (大変ありがとう)

Muchas veces (何回もお越し下さい) という意味です

引き続き、パンプローナ市役所において表敬訪問が行われ、市議会議員とバルシナ市長が「山口のみなさん、パンプローナのことを家族だと思って下さい」と述べた。その言葉を通してバルシナ市長は30周年の友好関係の素晴らしさを称賛した。それに対して渡辺市長は、「会ったばかりなのに長年の友人のような気がする」と答えた。パンプローナは遠いですが、前任者から継続しているこの交流事業に対して感謝していると述べた。1995年に山口公園を造園した「山口ナバラの会」の多々良孝一会長は、「公園が両市の友好の象徴となっており、整備をさせていただいていることに大変感謝している」と述べた。

(注:山口公園の完成は1997年)

山口市は金融危機の影響を受けている

山口市長渡辺純忠氏 65歳は複数の立候補者の中から選挙により再選を果し、二期目を務めている。山口市は人口およそ20万人を抱える日本の市で、そういった面ではパンプローナ市と似ている。

今回の訪問で、パンプローナ市に対してどのような印象を持たれましたか？

最初に感じたのはやはり距離ですね。本当に遠いです。私にとって、パンプローナもスペインも初めて訪れる場所です。パンプローナ市はとても美しく、私達訪問団への歓迎も素晴らしく、感謝しております。

ところで、山口市の予算はどのくらいですか？

今年の予算はおよそ6億7千200万ユーロです。(パンプローナの予算は2億5千800万ユーロ)

山口市はその予算をどのように使っていますか？

高齢者への福祉サービスが最も多く、その他、幼稚園の施設、教育、道路やインフラ等の土木工事への支出が多くを占めています。

市の財政事情はどうですか？

借金をしています。

山口市にも金融危機の影響がありますか？

だんだん影響が及んできている状況です。大学を卒業してすぐ就職できない若者が少なくありません。現在の失業率は7%です。

その状況に対して市の対応をお聞かせください。

できる限りのことですが、新規の労働者を採用する会社に対して補助金制度を設けています。市においては、雇用促進のため臨時職員も採用しています。

これから将来、両市の関係はさらに深まっていくのでしょうか？

今まで30年間友好関係を築いて来ている経緯から、今後も両市の関係は継承されて行くと思います。私たちは5年毎の記念事業を行い、また今回の訪問とは別に、今年11月には姉妹都市パンブローナ市のことを山口市の市民の皆さんにもっと知って頂く機会となる毎年恒例のスペイン祭を開催する予定です。さらに山口図書館にも協力して頂いております。私たちはバルシナ市長のメッセージをできるだけ多くの市民に伝えられるよう務めております。

Pamplona da la bienvenida a las dos delegaciones, una ciudadana y otra institucional, de la ciudad japonesa con motivo del 30º aniversario del hermanamiento de las dos ciudades. FOTO: Edurne Navarro / FOTO: Patxi Cascante

‘Youkoso’ Yamaguchi

UNA bienvenida (youkoso, en japonés) nocturna en la estación de tren de Pamplona y visita al centro de la ciudad y sus alrededores desde primera hora de la mañana. Así fue el tour *express* de las dos delegaciones, institucional y ciudadana de la localidad de Yamaguchi (situada en el suroeste de Japón) que viajaron ayer a Pamplona con motivo del 30º aniversario del hermanamiento de las dos localidades. La jornada comenzó con un paseo por el Casco Antiguo, a la sede del Gobierno y a la catedral, antes del intercambio de regalos por parte de las dos corporaciones municipales en la Casa Consistorial.

El alcalde de Yamaguchi, Sumitad Watanabe, en la que constituía su primera visita a la capital navarra, destacó “la alegría de sus ciudadanos” y “una ciudad muy bella con una gran tradición”.

En total, las dos delegaciones invitadas sumaron 22 visitantes, entre los seis miembros del comité institucional y los 16 representantes de la ciudadanía, encabezados éstos últi-

mos por Kouichi Tatara.

Tatara ya había viajado a Pamplona en varias ocasiones, dado que fue uno de los impulsores de la construcción del parque Yamaguchi hace 15 años, símbolo más emblemático del hermanamiento. Cada cinco años, Tatara se traslada a la capital navarra para aconsejar sobre el cuidado del parque.

En la sala de recepciones del Ayuntamiento se procedió a la entrega de los regalos. Un escudo de Pamplona, una reproducción de la fachada del Consistorio pamplonés y unos pañuelos rojos bordados con el escudo del Ayuntamiento por parte de la alcaldesa Yolanda Barcina, acompañada por varios miembros de la Corporación municipal y, desde las delegaciones de Yamaguchi, se le hizo entrega de un reloj lacado y un paquete con material del Teatro del Delantal, obsequio de la Asociación Pamplona Yamaguchi.

Un breve recorrido por la exposición del compositor Pablo Sarasate instalada en el Palacio del Conde, dio paso a la bienvenida gas-



La Corporación municipal y la delegación japonesa, ayer por la calle Mayor de Pamplona.

trónomica de la ciudad. Dados de tortilla, cuajada de espárragos y vino tinto antes de proseguir la visita al Castillo de Javier, al Palacio de los Reyes de Olite y al Palacio de Guendulain.

La segunda y última jornada dará comienzo en la Biblioteca Pública de Yamaguchi, sede que además acoge estas dos semanas las segundas Jornadas de Japón 2010.

Hoy será una mañana de representaciones artísticas, con la actuación de los títeres del Teatro del Delantal en el Colegio Público San Juan de la Cadena, el que también acudirá una treintena de alumnos.

“Hemos hecho muchos esfuerzos para profundizar nuestras relaciones”

SUMITADA WATANABE
Alcalde de Yamaguchi

Asimismo, a las 11.00 horas en la Sala de Armas de la Ciudadela tendrá lugar una representación de *Kamishibai*, que consiste en el arte de contar historias que se originó en el siglo XII en los templos budistas.

Uno de los momentos más signi-ficativos se llevará a cabo al mediodía en el parque Yamaguchi, con la plantación de seis cerezos de flor en el parque Yamaguchi, así como la izada de *Koinibori*, las banderas tradicionales en forma de carpas de unos 2 metros de longitud, último acto conmemorativo antes de la partida de las delegaciones japonesas.

Diario de Noticias 2010年10月21日

「ようこそ」山口市の皆さん

パンプローナ市は、姉妹都市締結 30 周年を記念して訪れている山口市公式・市民訪問団を歓迎した。「ようこそ」という日本語で、山口市とパンプローナ市の姉妹都市締結 30 周年記念公式・市民訪問団を深夜のパンプローナ駅において歓迎した。翌朝、訪問団は旧市街とその周辺も視察した。今回の訪問は、「エクスプレス訪問」と言っても良いだろう。

訪問団一行は、ナバラ政府の建物や大聖堂、及び旧市街を視察した後、市役所で記念品の交換を行った。山口市の渡辺純忠市長は、パンプローナ初訪問にあたって、市の印象を「市民の明るさが印象的」また、「歴史が深く美しい所」と賞した。多々良孝一団長を代表とした市民訪問団は 16 名、公式訪問団は 6 名、全員で 22 名の訪問になる。両市の姉妹都市締結の象徴となっている山口公園は 15 年前作られた。多々良氏自身は造園技師で、公園が作られた 15 年前は優れた技術を用いて造園事業に貢献し、今でも 5 年ごとにパンプローナ市へ行き公園の整備活動を行っている。

パンプローナ市役所のレセプションルームでは記念品の交換が行われた。パンプローナ紋章や市役所正面のモデル、パンプローナ市章の刺繍がある赤いスカーフをバルシナ市長と市議会議員らが贈った。山口市からは漆の時計、「山口ナバラの会」からはエプロンシアターの贈呈があった。コンデスタブレ邸宅のパブロ・サラサーテにて作曲家についての展示を視察した後、食事の時間になり、トルティーヤやアスパラ料理やワインを堪能した。その後、ザビエル城、オリテ城とゲンドウライン城を見物した。

最後の日になる二日目の訪問先の山口図書館では、偶然にも二週間の間「日本文化祭」が行われている。サン・フアン・デ・ラ・カデナ小学校ではエプロンシアターの披露を行い、約 30 名の学生達がシアターを見物をする予定。今日は芸術的な一日になる。また、午前 11 時には「シウダデラ」の城塞の武器室で紙芝居の公演がある予定。紙芝居というのは 12 世紀に仏教寺院で生まれた物語を語る劇のことを言う。また、訪問団一行が帰国する前に大切な行事が残されている。お昼に山口公園において桜の木の植樹と鯉のぼり揚げの式典が執り行われる。鯉のぼりというのは約 2 メートルの長い鯉の形の旗のこと。

「今まで両市は姉妹都市の関係をより確かなものにするために、様々なことに労を尽くしてきました。」 一山口市長 渡辺純忠

訳: 山口県国際交流員 Santiago Gastaminza